



BE THE INSPIRATION

国際ロータリー 第2570地区 第2グループ

志木ロータリークラブ

2018-19年度 国際ロータリー会長 バリー・ラシン 「BE THE INSPIRATION—インスピレーションになろう」
 2018-19年度 第2570地区ガバナー 茂木 正 「想いを繋ぎ地域と国の発展に奉仕する」
 2018-19年度 志木RC会長 林 康雄 「凛として挑む 一 衆の目的を指し」

第2247回 例会

2018-9-12

- ◎司会 高橋健一郎 副会長
- ◎点鐘 林 康雄 会長
- ◎ソング 我等の生業
- ◎ソングリーダー 塩野 章 会員
- ◎四つのテスト 塩野 章 会員
- ◎ゲスト ギボ・ルシーラ・エツコ様(卓話者)



ソングリーダー・四つのテスト 塩野 章 会員



大災害は起きて欲しくないですが、関東大震災が歴史上日本のロータリークラブに大きな影響を与えたことをご存じでしょうか。

1920年10月に東京RCが創立しました。会員選考は厳格で超一流人であるうえ、英語を話せることが必須でした。特例により月1回の例会となっていましたが、会員の出席状況はかんばしくありませんでした。また、奉仕活動に対する会員の関心も希薄で、例会の存続も危ぶまれる状況が続きました。

大正12年9月1日関東大震災が勃発。「東京・横浜壊滅」の凶報が海外へ伝わると、海外各国から救援の手が差し伸べられました。

国際ロータリーからは、ガイ=ガンディーガール会長のお見舞電報とともに2万5000ドルが贈られてきたのをはじめ、シカゴRCから1500ドル、ニューヨークRC、サンフランシスコRCからそれぞれ1000ドルなど、続々と義捐金や救援物資が到着。そのクラブ数はアメリカ、イギリス、カナダをはじめ503クラ

「会長挨拶」

会長 林 康雄

9月6日(木)の未明、北海道南西部に最大深度7を記録した地震が発生しました。

今年の夏は記録的な早さの梅雨明けで始まり、西日本への集中豪雨により中国、四国地域に大災害をもたらし、連日の猛暑日により多くの熱中症患者が発生し、台風21号が関西地域へ豪雨と烈風による被害をもたらしました。そして、今度は北海道南西部に震度7の地震と、立て続けに自然災害が続きました。改めて、日本は自然災害列島であると感じざるを得ない夏の終わりでした。

ブに及び、その額も 89,000 ドル程になりました。

今までロータリーなどたいした組織ではないと内心馬鹿にしていた日本のロータリアンは、ロータリー運動の何たるかを知り、大変な組織であることに気がきます。この義捐金によって東京 RC は東京、横浜の小学校の再建や被災者支援と震災復興の社会奉仕活動を実行することになります。

こうして、奉仕活動の喜びを経験した会員は、月 1 回だった例会を毎週水曜日に開催するようになり、日本におけるロータリークラブの黎明期が始まるのです。

ところで、今月はロータリーの「基本的教育と識字率向上・R の友月間」です。世界には基本的な読み書きと算数が出来ない子供が 2 億 5000 万人。読み書きが出来ない大人が 7 億 5000 万人います。低所得国のすべての子供が基本的な識字力を身につけて学業を終えることが出来れば、推定 1 億 7100 万人が貧困から解放されると言われています。

基本的教育と識字力は、貧困問題や保健衛生の課題に取り組むために必要であり、地域社会の発展と紛争のない世界を実現するために欠くことのできない重要なファクターとなっています。一人の力は限られていますが、R 財団への寄付によって「教育と識字率向上」の分野において世界中でロータリーが実施するプロジェクトに参加することが出来るのです。

「理事会報告」(9/5開催分) 会長 林 康雄

1. 例会変更の件

○10月24日(水)の「川の清掃への振替」を変更し、同日(水)「創立 50 周年記念ワークショップ」に移動例会とする。点鐘 18:15 会場パルシティ 会費 3,000 円：承認

○10月31日(水)の定款による例会取消を 10月28日(日)実施の「志木市川と街をきれいにする運動」の振替とする：承認

○11月14日(水)を「小諸 RC 創立 55 周年記念」に移動例会として参加：承認

○11月28日(水)を「秋のイブニングミュージック例会」として移動例会とする：承認
点鐘 18:00 場所ベルセゾン 5 階 ビュッフェ形式・ミュージシャン 3 名

「幹事報告」

幹事 市之瀬正靖



1. 地区事務所より 2 件受信

①2018～2019 年度米山月間 米山記念奨学部門卓話の件及び奨学生名簿・地区役員名簿受信

②交換学生月次報告書受信 (権田・藤井・今田・工藤)

2. 朝霞 RC より 2018 年度第 2 回会長・幹事会開催の知らせ受信

日時：9月19日(水) 18:00～20:00

場所：ベルセゾン 2 階「Kawasemi」

3. ボーイスカウト志木第一団より助成金の礼状受信

「『ロータリーの友』記事紹介」

雑誌委員会 委員 吉田靖夫

『ロータリーの友』9月号記事紹介

9月は、基本的教育と識字率向上・ロータリーの友月間です。

横組 P22 「ロータリー希望の風奨学金」

息の長いプログラムをどうするか

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会委員長 地葉新司 (潟上 RC)



震災後 7 年が経ち、開始当時のモチベーションを継続することの難しさが、今までのような支援を継続することに困難な状況が予想されるという。

先程、林会長のお話にもあったように、先週は北海道で地震があったり、本州で台風が来たり、いろいろな災害がある。

今まで東北の大震災に支援をしてきたが、今後起こるこれらの災害に対して、ロータリーはどう対処するのか。財源はどうするのか。考えなければいけない問題だと思う。

P40 トロント国際大会

女性が与えるインスピレーション

近年は女性会員がだいぶ増え、また、トロントの国際大会においては、講演者として多くの女性が登用されたという。

こうした世界的な流れの中で、女性会員をどうするのかという問題に対する我が志木クラブの取り組みを如何にせんと感じている。

「卓話者紹介」

宮原俊介会員



「卓話」

「言語研究の魅力」

上智大学 外国語学部 ポルトガル語 助教
ギボ・ルシーラ・エツコ 博士(学術)



私はブラジル生まれのブラジル育ちの日系ブラジル人です。両親は沖縄県出身なので、沖縄語と日本語とポルトガル語が同時に話される家庭で育ちました。そんな環境で育った私は幼い頃から言語のバリエーションを意識させられ、「言語」というものに興味を持ちはじめました。大学では、日本語を学びながら、日本語と沖縄語とポルトガル語の言語の接触現象について研究し、現在は、「ブラジルの沖縄系移民社会における言語接触」と「琉球語の継承」について研究しています。

本卓話では、今までに明らかにした「ブラジル沖縄コロニア語」(沖縄系ブラジル人の中で話される日本語と沖縄語、ポルトガル語が交じりあった言語)の特徴を紹介しつつ、言語を科学的に記述する記述言語学、また、これらの言語調査の方法や言語分析の仕方についてお話します。そして、これらの研究を通じた言語研究の意義と私が言語研究の魅力として考える「創造力・想像力が養われる」、「論理的である」、「人の心・社会の変化がわかる」などについてもお話しさせていただきます。



●出席報告			出席向上 委員 神山昌之
会員数44名	出席義務者35名	免除者9名	
本日出席 39名	本日出席 3名	本日出席率 92.86%	
前々回 MU (4名中2名)	前々回修正出席率 95.00%	平均出席率 93.85%	